

<b>SKYLIGHT</b> 〈今月の焦点〉	チャンドラで見た銀河団	藤 田 裕	418
<b>EUREKA</b> 〈研究紹介〉	宇宙に於ける惨劇：恒星が惑星を飲み込む	(筆者) Garik Israelian (訳者) 伊 藤 孝 士	426
シリーズ	《海外研究室事情 (33)》 Astrophysics Group and Plasma Physics group, UMIST (University of Manchester, Institute of Science and Technology) UMIST (マンチェスター理工科大学), 天体物理学研究室およびプラズマ物理学研究室	松 浦 美 香 子	432
雑報	第 8 回IAUアジア・太平洋地域会議報告 IAU APRM2002募金報告	池 内 了 募 金 委 員 会	434 435
	日本天文学会 早川幸男基金による 渡航報告書	三 澤 透	436
	日本天文学会 早川幸男基金による 渡航報告書	山 岡 和 貴	437
書評	宇宙スペクトル博物館〈可視光編〉 天空からの虹色の便り	土 橋 一 仁	438
月報たより			439

[ 表 紙 説 明 ]

図 3 a (左上) : アメリカのX線天衛星チャンドラによる銀河団 Abell133の中心部のX線画像。一辺が100キロパーセク程度。これまでにない高解像度で銀河団ガスの構造が明らかにされている。図の中心付近に白色で表される小さなガスの塊がいくつか見られるが、これらは中心部領域が銀河団に対して運動しながら崩壊しているためにできたと考えられる。図 3 b (右下) : X線画像 (赤) に、電波画像 (緑) を重ねたもの。X線放射 (赤) として観測されているガスが電波が放射されている緑の領域に向かって巻き上がっている。これは緑の領域にある銀河団ガス中の泡が浮力で移動しているためだと考えられる。

(SKYLIGHT 参照)